

はじめに

本研究論文の募集は、教職員の自主的な研究を奨励し、効果的な実践や先進的な取組を研究論文としてまとめることを通して研修意欲や専門性を高めるなど、教職員個々の資質の向上を図ることを目的として、昭和46年度から実施しております。平成23年度は東日本大震災及び原発事故により募集を行いませんでしたが、平成24年度から募集を再開し、本年度で48回を数えます。この長い歴史の中で、数多くの教職員がその時代を反映した様々な教育課題に真正面から向き合い、その研究成果を発表してこられました。

昨年度、研究論文の「形式」、「提出方法」に関して改善・変更を加えました。特に「形式」に関しましては、資料編を縮小することとし、必要な資料は基本的に論文の中に効果的に入れ込む形としました。この改善・変更の甲斐あってか、学習指導、特別支援教育、学校経営など、様々な教科・領域にわたる論文が39点寄せられました。これは、東日本大震災以降では最も多かった昨年度（36点）を超える応募点数であり、今後更に応募数が増えるものと期待しております。

さて、福島県教育委員会では、平成29年3月に「頑張る学校応援プラン」を策定し、児童生徒の学力や教員の指導力の向上等に取り組んでおります。このような中、各学校や教職員の皆様が、学校や学年・学級、教科等の課題を的確に捉え、指導内容・方法の質的改善を図り、実践研究に取り組まれていることを、大変ありがたく、そして心強く思います。

この特選論文集に収められた論文は、39点の応募の中から、厳正な審査を経て特選に選ばれたものであり、各学校が抱える課題の解決に向けて、具体的な示唆を与えてくれるものでもあります。各学校等におかれましては、研究成果を参考にし、本県の復興・再生を担う人材育成のために研究をさらに深められ、本県学校教育の充実・改善に大いに役立てていただければと思います。

最後になりますが、応募されました皆様の御努力に心から敬意を表しますとともに、今後、皆様の実践研究の成果を各学校等に広めていくことにより、本県教職員の研修意欲や専門性の向上が一層図られ、本県児童生徒の健やかな成長と学校の発展につながっていくことを心から期待いたします。

令和2年2月

福島県教育庁義務教育課長 福地 裕之